

令和7年4月入学

広島大学大学院人間社会科学研究科【博士課程後期】

学生募集要項

人文社会科学専攻 人文学プログラム

〔一般選抜〕 〔社会人特別選抜Ⅰ〕

令和6年10月



広島大学

目 次

アドミッション・ポリシー	1
広島大学志願者への入学検定料の免除措置について	2
1. 募集人員及び試験場	3
2. 出願資格	3
3. 出願手続	4
4. 入学者選抜方法	8
5. 合格者発表	8
6. 入学手続	8
7. 現職教員等の社会人で教育方法の特例の適用を希望する場合	8
8. 長期履修制度について	9
9. 出願に伴う個人情報について	9
10. 学生宿舎について	9
11. その他	9
出願・照会先	9
人間社会科学研究科の各専攻・プログラム問い合わせ先	10
令和6年度広島大学大学院人間社会科学研究科学生募集に伴う 試験成績（個人情報）の開示について	12
人文社会科学専攻 人文学プログラム 指導教員一覧	13

※ 本募集要項に記載された日時は、全て日本時間です。

◆アドミッション・ポリシー

人間社会科学研究科では、以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を求める。

- ① 幅広い教養、人文科学、社会科学や教育科学及び関連する学問領域における卓越した知識と研究能力とともに、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付けて、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人
- ② 幅広い教養、人文科学、社会科学や教育科学及び関連する学問領域における卓越した知識と研究能力とともに、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付けて、現在の人類社会が抱える課題、あるいは今後抱えるかもしれない課題にチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人

人間社会科学研究科は、これらの人を受け入れるため、そのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、面接試験、学力試験、外部試験等を用いた多面的・総合的な評価による入学者選抜を実施する。

<人文社会科学専攻>

人文社会科学専攻では、以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を求める。

- ① 幅広い教養、人文科学や社会科学及び関連する学問領域における卓越した知識と研究能力とともに、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付けて、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人
- ② 幅広い教養、人文科学や社会科学及び関連する学問領域における卓越した知識と研究能力とともに、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付けて、現在の人類社会が抱える課題、あるいは今後抱えるかもしれない課題にチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人

人文社会科学専攻は、これらの人を受け入れるため、そのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、面接試験、学力試験、外部試験等を用いた多面的・総合的な評価による入学者選抜を実施する。

<人文学プログラム>

人文学プログラムでは、以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を求める。

- ① 論理的思考力、創造力、語学力など、人文学を学ぶために必要な高度な専門性を身に付けている人
- ② 柔軟で批判的な精神を持ち、主体的に卓越した専門性の学習や先端的な研究を行う意欲のある人
- ③ 原典・資料に基づいて、人間、文化、歴史、環境について幅広く深く考察したい人
- ④ 卓越した専門性を活かして世界に羽ばたきたいという意欲を持つ人

人文学プログラムは、これらの人を受け入れるため、そのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、面接試験、学力試験、外部試験等を用いた多面的・総合的な評価による入学者選抜を実施する。

広島大学志願者への入学検定料の免除措置について

広島大学では、被災者の経済的負担を軽減し、志願者の進学機会の確保を図るため、令和6(2024)年度に実施する本学の入学者選抜において、入学検定料の免除措置を実施することとしましたので、お知らせします。

入学検定料の免除を希望される方は、出願前に必ず以下の「8 問い合わせ先」までご連絡ください。

1 免除措置の対象となる入学者選抜

令和6(2024)年度に実施する本学の学部、大学院及び専攻科入学者選抜（再入学、転学及び編入学に係る選考を含みます。）

2 措置内容

入学検定料の免除

※ 入学試験成績の開示に係る手数料も、免除の対象となります。

3 免除の対象となる災害

令和元年8月28日以降に災害救助法の適用を受けた災害

※ 入学検定料の免除の対象となる入学者選抜は、当該災害の災害救助法適用日以降、当該適用日から起算して5年を経過する日までの間に就学期間の最終日が設定されているものに限ります。

4 免除の対象者

「3 免除の対象となる災害」において災害救助法が適用されている地域(注)で被災した志願者で、次のいずれかに該当する方

- (1) 主たる学資負担者が居住する自宅家屋が全壊、大規模半壊又は半壊した場合
- (2) 主たる学資負担者が死亡又は行方不明の場合

(注) 災害救助法適用地域等は、次の内閣府ホームページでご確認いただけます。

http://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujo/kyuujo_tekiyou.html

5 申請方法

事前に「8 問い合わせ先」に連絡した後、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

なお、この場合は、出願時に「入学検定料」を払い込まないでください。

6 申請書類

- (1) 検定料免除申請書（本学ホームページからダウンロード）
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi/news/1058>
- (2) リ災証明書（写し可）（上記4の(1)に該当する方）
- (3) 死亡又は行方不明を証明する書類（写し可）（上記4の(2)に該当する方）

7 インターネット出願における入学検定料免除特例措置の手続方法

本学ホームページ掲載のPDFファイルを参照してください。

https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/186130/menjo_r4_ver2.pdf

8 問い合わせ先

人文社会科学系支援室（文学事務室）

〒739-8522 東広島市鏡山一丁目2番3号

TEL : (082)424-6615

令和7年4月本学大学院人間社会科学研究所（博士課程後期）に入学させる学生を次のとおり募集します。

※感染症等の影響により試験期日や選抜方法が変更される可能性があります。変更内容については本学ホームページ等で公表します。

1. 募集人員及び試験場

専攻プログラム	選抜区分/ 募集人員	専門分野等	試験場 出願・照会先
人文社会科学専攻 人文学プログラム	一般選抜 若干名 社会人特別選抜Ⅰ 若干名	比較日本文学 哲学 イント哲学(※) 倫理学 中国思想文化学 日本史学 東洋史学 西洋史学 日本文学語学 中国文学語学 アメリカ・イギリス文学 英語学 ドイツ文学語学 フランス文学語学 言語学(※) 地理学 (人文地理学・自然地理学) 考古学 文化財学	(試験場) 広島大学文学部 (出願・照会先) 人文社会科学系支援室（文学事務室） 〒739-8522 東広島市鏡山一丁目2番3号 (082)424-6615 bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

※ 令和7年4月に一部の専門分野で名称変更を予定しています。

◇人文社会科学専攻入学定員 82名

各プログラム目安定員：人文学プログラム 31名、心理学プログラム 8名、法学・政治学プログラム 4名、
経済学プログラム 5名、マネジメントプログラム 12名、国際平和共生プログラム 6名、
国際経済開発プログラム 2名、人間総合科学プログラム 14名

2. 出願資格

〈一般選抜〉

次の各号のいずれかの資格を有する者又は令和7年3月31日までに取得見込みの者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
※第4号・・・外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7年3月31日までに24歳に達したものの

注意事項1. 上記の資格(8)により出願しようとする者は、事前に人文社会科学系支援室（文学事務室）に相談の上、令和6年12月3日(火)までに必要書類を提出してください。

〈社会人特別選抜Ⅰ〉

社会人特別選抜Ⅰに出願できる者は、日本国籍を有する者で、下記による大学院博士課程前期修了等の資格を得た後、入学時において2年以上の職歴もしくはその他の社会的経験を有する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

者

- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
※第4号・・・外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和7年3月31日までに24歳に達したもの

注意事項1. 上記の資格(8)により出願しようとする者は、事前に人文社会科学系支援室（文学事務室）に相談の上、令和6年12月3日(火) までに必要書類を提出してください。

注意事項2. 大学院設置基準第14条の特例を希望する場合は、令和6年12月3日(火) までに人文社会科学系支援室（文学事務室）にその旨申し出てください。

3. 出願手続

(1) 出願期間

事 項	期 間
インターネット入力及び 入学検定料の支払	令和7年1月7日(火)～令和7年1月14日(火) 16:59まで
別途郵送が必要な 出願書類の提出	【郵送する場合】 令和7年1月7日(火)～令和7年1月14日(火) 17:00まで (必着)
	【持参する場合】 令和7年1月7日(火)～令和7年1月14日(火) 17:00まで (受付時間: 8:30～17:00) (ただし、土・日・祝日を除く。)

(2) 入学検定料 30,000円

インターネット出願システムにより納入してください。

ただし、p.2の免除措置対象者、国費外国人留学生及び本学大学院博士課程前期を令和7年3月末に修了見込みの者は不要です。

(3) 出願手続

出願期間内に、次の8つのステップを完了してください。

Step 1: インターネット出願システムにアクセスする

アクセスページ

広島大学入試情報

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi>



◆インターネット出願システム・UCARO に関するお問い合わせ先

ヘルプデスク（日本語対応のみ）

受付時間：10:00 から 18:00 まで
(12月30日～1月3日を除く)

電話番号：03-6634-6494

※日本国外及びIP電話からもご利用いただけます。

- ◆入試に関する不明点等は、人文社会科学系支援室（文学事務室）に問合せください。
受付時間 8:30 から 17:15 まで（土日祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）を除く）

Step 2: UCARO ログイン画面から「UCARO 会員登録」を選択

出願には「UCARO」への会員登録（無料）が必須です。

UCARO については、以下の URL を参照してください。

<https://www.ucaro.net/>

Step 3: （必要な入試区分のみ該当）アカウントを入力

p.2 の免除措置対象者、国費外国人留学生及び本学大学院博士課程前期を令和7年3月に修了見込みの者は、検定料不徴収画面から入力してください。該当する場合は、事前に人文社会科学系支援室（文学事務室）に連絡し、アカウントの発行を依頼してください。

Step 4: インターネット出願システムに志望情報等を入力

画面上の指示に従って、氏名、住所、電話番号、メールアドレス等を入力してください。

外国人学生については、パスポートの氏名表記に基づき、姓、名の順番に記入してください。

必ず希望する指導教員を入力してください。

※入力いただいた個人情報、入学試験の実施及び選考、合格の通知及び発送、入学手続書類の送付、入学前後の案内の送付、入試統計データの作成、学生証の作成、学籍データの作成、入学検定料の収納等で利用しますので、正確な情報を入力してください。

Step 5: 写真をアップロード

デジタル写真（ファイル形式等：JPEG）を画面の案内に従ってアップロードしてください。

郵送での提出はできません。

※出願時にアップロードされた写真は、受験時の本人確認のため使用するほか、入学後の学生証及び本学の教務システムでも卒業（修了）まで使用します。

このため、入学後にも使用可能な写真のアップロードを推奨します。

なお、写真アップロード後の差し替えはできません。

入学後に学生証の内容（写真や姓名の漢字表記）を変更する場合は、1,000 円の手数料が必要です。

Step 6: 入学検定料（30,000 円）の支払い

「決算情報を入力」の画面で、次の中から支払方法を選択してください。

1. クレジットカード：Credit Cards: VISA, MasterCard, JCB, AMERICAN EXPRESS, Diners Club
2. コンビニエンスストア：セブンイレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、デイリーヤマザキ、セイコーマート
3. 金融機関 ATM 【Pay-easy】
4. ネットバンキング

(注)

・ 入学検定料の他に、1 回の出願ごとに必要なインターネット出願システム手数料は、志願者負担となります（インターネット出願システム手数料の金額は出願時に表示されます。）。

－ 出願受付後はいかなる理由があっても、既納の入学検定料は返還しません。

なお、次の (1)、(2) の場合は、既納の入学検定料から振込手数料を差し引いて返還します。本学から検定料返還のための「返還請求書」を郵送しますので、「出願番号」、「ふりがな」、「氏名」、「電話番号」、「住所」、「振込先」及び「返還請求の理由」等を記入・押印の上、令和7年2月28日(金)までに Step8 の送付先に郵送してください。ただし、いずれの場合もインターネット出願の手数料は返還対象外です。

- (1) 出願書類を提出しなかった、又は受付されなかった場合
- (2) 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

Step 7: 出願情報の登録完了

出願番号 (6桁) が表示されるので、メモしておいてください。

Step 8: 出願書類の郵送又は持参

以下のいずれかの方法により、人文社会科学系支援室 (文学事務室) へ提出してください。

1. 郵送による提出

【日本国内から出願の場合】

市販の角形2号封筒 (横 24cm×縦 33.2cm で A4 サイズの書類を折らずに入れることができる封筒) を用意し、「広島大学大学院人間社会科学研究科 出願書類在中」と明記し、郵送に必要な切手を貼付の上、出願期間内に到着するように、**簡易書留**郵便で、郵送してください。

【日本国外から出願の場合】

A4 サイズの書類が入る封筒 (横 24cm×縦 33.2cm 程度) を用いて、EMS (Express Mail Service) 等の最速の国際郵便で郵送してください。

2. 持参による提出

市販の角形2号封筒 (横 24cm×縦 33.2cm で A4 サイズの書類を折らずに入れることができる封筒) を用意し、「広島大学大学院人間社会科学研究科 出願書類在中」と明記し、必要書類をすべて封入の上、提出してください。この場合、切手は不要です。

(4) 出願書類受付場所及び連絡先

人文社会科学系支援室 (文学事務室)

〒739-8524 東広島市鏡山一丁目2番3号

TEL: (082)424-6615 / 6616

E-mail: bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

(5) 郵送が必要な出願書類等

	出願書類等	摘要
A	学歴・履歴	所定の様式 (※) を使用してください。 記載すべき内容がない場合でも、「学歴・職歴：該当なし」と記入のうえ、提出してください。
B	学業成績証明書	出身大学 (研究科) 長が作成したもの。
C	修士課程修了 (見込) 証明書	出身大学 (研究科) 長が作成したもの。 (出願資格が確認できる証明書) (既卒の方は、学位情報が記載されていることを確認してください) ただし、中国 (台湾、香港、マカオを除く) の大学院を修了した者 または 修了見込みの者は、以下の書類をご提出ください。 【修了した者】 <ul style="list-style-type: none">・学歴証書電子登録票 (教育部学历证书电子注册备案表)・修了証書 (毕业证书) の写し・学位証書 (学位证书) の写し 【修了見込みの者】 <ul style="list-style-type: none">・オンライン在籍認証レポート (教育部学籍在线验证报告)・修了見込証明書 ※ 学歴証書電子登録票及びオンライン在籍認証レポートは、中国教育部認証システム (中国高等教育学历证书查询 http://www.chsi.com.cn/xlcx/bgys.jsp) より取得し、提出時点で Web 認証の有効期限が6か月以上残っていることを確認してください。 ※ 出身大学と出身大学院が違う系列の場合は、出身大学の上記「【修了した者】」の書類もあわせて提出してください。(修了を卒業と読み替える)
D	修士論文等	以下の①～③の書類 (様式自由) を提出してください。 ① 修士論文 (写し) 又はそれに準じるもの (写し)

		② ①の内容を2,000字～4,000字程度でまとめた要約（原則として日本語） ③ 修士の学位取得後の研究業績 ※ ③の研究業績は、写し又は原物がある場合に提出してください。入学試験終了後返却しません。
E	研究計画書	所定の様式（※）を使用し、入学後の研究計画について3,000字程度で記述してください。
F	教育・研究業績等調書	<u>社会人特別選抜I</u> で出願する者は、所定の様式（※）を使用し、提出してください。 ※ 教育・研究業績等調書で提出された活動内容を示せる印刷物や製作物については、入学試験終了後返却します。
G	氏名に関する証明書	改姓等により出願時の氏名と証明書類の氏名が異なる場合には、新旧両方の氏名が確認できる公的機関が発行した書類（住民票の写しなど）を提出してください。
H	在留カードの写し（両面）	日本国内に在住する外国人のみ提出してください。
I	パスポートの写し（氏名と顔写真のページ）	日本国外に在住する外国人のみ提出してください。
J	国費留学生の証明書、 延長申請予定の旨を記載した任意の書類	国費留学生のうち、出願時に本学に在籍していない者は提出してください。

【注意事項】

- （※）印の様式は、広島大学人間社会科学研究科のホームページからダウンロードできます。
- 上記の出願書類等は一括して提出してください。
- 出願書類受理後の記載内容の変更は認めません。
- 出願書類受理後は、提出書類等は返還しません。（修士の学位取得後の研究業績を除く）
- 出願書類に不備がある場合は、受理しないことがあります。
- 出願書類のうち、外国語（日本語又は英語以外）によるものには、日本語又は英語の訳を付してください。
- 合格後あるいは入学後、提出書類に虚偽の記載や詐称があることが判明した場合、合格・入学を取り消します。
- 修了見込みで出願して合格した者が、入学前日までに修了できなかった場合、入学資格がないものとみなされます。

(6) 受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談

障害のある者等、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、次の事項を記載した申請書（様式は定めません。）を出願書類受付場所（「3. 出願手続」(4)参照）に提出し、相談してください。

ア 相談の時期 令和6年12月3日(火) まで

イ 申請書の記載内容

- ① 志願者の氏名、住所
- ② 連絡先電話番号（携帯電話がある場合は、携帯電話番号も併記してください。）
- ③ 出願予定のプログラム・専門分野
- ④ 出身大学大学院名
- ⑤ 志望する指導教員名
- ⑥ 障害等の種類・程度（障害者手帳のコピーまたは医師の診断書を添付してください。）
- ⑦ 受験上の配慮を希望する事項
- ⑧ 修学上の配慮を希望する事項
- ⑨ 出身大学等でとられていた配慮
- ⑩ 日常生活の状況

(7) 受験番号の閲覧及び受験票等の印刷について

本学において出願書類を受領した場合は、令和7年1月21日(火)12:00(予定)からUCAROにより受験番号、受験票及び受験案内が閲覧可能となります。試験実施日までにUCAROから受験票を印刷しておいてください。

4. 入学者選抜方法

〈一般選抜〉 〈社会人特別選抜Ⅰ〉

学力検査(口述試験)、研究業績(修士論文等)及び出願書類(学業成績、研究計画書)を総合して選考します。

年 月 日 (曜)	時 間	試 験
令和7年2月15日(土)	13:00 ~	口述試験

5. 合格者発表

令和7年2月28日(金)12:00の予定

合格者に合格通知書を送付します。また、UCAROに可否の結果を掲載します。電話等による照会には応じられません。

なお、UCAROへの可否結果の掲載は、本研究科の情報提供の一環として行うものであり、公式の合格者発表は、合格通知書等の郵送となります。

6. 入学手続

(1) 入学手続期間

令和7年2月28日(金) ~ 令和7年3月6日(木)17:00まで(必着)

(2) 納付金

入学料 282,000 円
授業料 前期分 267,900 円
(年額 535,800 円)

【注1】 既納の入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

【注2】 上記記載の金額は令和6年4月現在のものです。入学時及び在学中に納付金の改定が行われた場合には、改定後の納付金を納入することになります。

【注3】 納付金の額及び具体的な納付方法等の詳細については、別途お知らせします。

(3) 提出書類

入学届、学生情報登録シート、修了証明書及び学業成績証明書(修了見込みで受験した者)、公務員その他民間会社等に在職のまま入学する者は所属長の承諾書などです。合格者には別途案内します。

7. 現職教員等の社会人で教育方法の特例の適用を希望する場合

本研究科では、社会人としての職務の遂行と本研究科での履修が両立するよう、大学院設置基準第14条の特例(大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。)を適用し、就学上の便宜を図ります。

なお、特例措置による履修方法は、受入予定指導教員の指導を受けてください。

また、特例措置により履修を希望する場合は、インターネット出願の志望情報入力(p.5・Step4)の際に、教育方法の特例適用希望の有無で「有」を選択してください。

8. 長期履修制度について

以下の者を対象として、標準の修業年限を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修して課程を修了することができる制度があります。申請は入学後となります。

- (1) 職業を有し、かつ、就業している者（アルバイトとして就業する者を含む。）で、学修時間の確保が著しく困難であるもの
- (2) 家庭において家事、育児及び介護を行う者で、学修時間の確保が著しく困難であるもの

この制度による授業料は、標準の修業年限分の授業料総額を計画的に履修することを認められた一定の期間の年数で分割して納めることとなります。

なお、長期履修期間の年限等この制度の詳細については、人文社会科学系支援室（文学事務室）に照会してください。
ただし、在留資格が留学の場合は対象外です。

9. 出願に伴う個人情報について

出願書類等に記載された個人情報（氏名、生年月日、性別、その他の個人情報等）は、入学者選抜及び合格通知並びに入学手続を行うために利用します。

合格者の入学後は、学生支援関係（奨学金申請、授業料免除申請等）業務及び調査・研究（入試の改善や志願動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

なお、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、コンピュータ処理をするため、関連業務を外部の事業者に委託することがあります。

10. 学生宿舎について

学生宿舎の入居者募集については、入居願の提出期限が令和7年2月上旬を予定していますのでご注意ください。
詳細については、学生宿舎ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス：<https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyugaku/shien/jyuukyo>

問い合わせ先： 広島大学教育室教育部学生生活支援グループ

電話：(082) 424-5794

E-mail：gkeizai-group@office.hiroshima-u.ac.jp

11. その他

広島大学は、令和2年1月からキャンパス内全面禁煙となりました。

出願・照会先

人文社会科学系支援室（文学事務室）

〒739-8522 東広島市鏡山一丁目2番3号

電話：(082) 424-6615 / 6616

E-mail：bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

- (1) 電話番号については、市外局番が同じ地域がありますが、東広島市以外の地域については、市外局番からダイヤルしていただく必要がありますのでご注意ください。
- (2) 気象等の影響で試験日時を変更する場合は、人間社会科学研究科ホームページで発表します。

ホームページアドレス <https://www.hiroshima-u.ac.jp/gshs>

人間社会科学研究科の各専攻・プログラム問い合わせ先

専攻	プログラム	問合せ先
人文社会科学専攻	人文学プログラム	〒739-8522 東広島市鏡山一丁目2番3号 人間社会科学研究科 人文社会科学系支援室（文学事務室） TEL：(082)424-6615,6616
	心理学プログラム	〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号 人間社会科学研究科 教育学系総括支援室（大学院課程担当） TEL：(082)424-3706
	法学・政治学プログラム	〒730-0053 広島市中区東千田町一丁目1番89号 人間社会科学研究科 東千田地区支援室（法学・政治学プログラム入試担当） TEL：(082)542-7045
	経済学プログラム	〒739-8525 東広島市鏡山一丁目2番1号 人間社会科学研究科 人文社会科学系支援室（経済学プログラム入試担当） TEL：(082)424-7189
	マネジメントプログラム	〒730-0053 広島市中区東千田町一丁目1番89号 人間社会科学研究科 東千田地区支援室（マネジメントプログラム入試担当） TEL：(082)542-6962
	国際平和共生プログラム	〒739-8529 東広島市鏡山一丁目5番1号 人間社会科学研究科 国際協力学系支援室 TEL：(082)424-6909
	国際経済開発プログラム	
	人間総合科学プログラム	〒739-8521 東広島市鏡山一丁目7番1号 人間社会科学研究科 総合科学系支援室（大学院課程担当） TEL：(082)424-6316
教育科学専攻	教師教育デザイン学プログラム	〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号 人間社会科学研究科 教育学系総括支援室（大学院課程担当） TEL：(082)424-3706
	教育学プログラム	
	日本語教育学プログラム	
	国際教育開発プログラム	〒739-8529 東広島市鏡山一丁目5番1号 人間社会科学研究科 国際協力学系支援室 TEL：(082)424-6909

教職開発専攻	教職開発プログラム	〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号 人間社会科学研究科 教育学系総括支援室（大学院課程担当） TEL：(082)424-3706
実務法学専攻	実務法学プログラム	〒730-0053 広島市中区東千田町一丁目1番89号 人間社会科学研究科 東千田地区支援室（法科大学院担当） TEL：(082)542-7087
国際連携専攻	広島大学・グラーツ大学 国際連携サステイナビリティ学 専攻	〒739-8529 東広島市鏡山一丁目5番1号 人間社会科学研究科 国際協力学系支援室 TEL：(082)424-6909

令和7年度広島大学大学院人間社会科学研究科学生募集に伴う 試験成績（個人情報）の開示について

1. 下表に示す、個人に関する入試情報（以下「個人情報」という。）は、令和7年度広島大学大学院人間社会科学研究科学生募集に伴う本学の一般選抜又は特別選抜を受験した者（以下「開示申請者」という。）に限り開示します。

項 目	開 示 内 容
試 験 成 績	人文社会科学専攻 人文学プログラム 博士課程後期 一般選抜 又は 社会人特別選抜 I 各試験科目の段階評価

2. 試験成績（個人情報）の開示に関する手続の流れは次のとおりです。

(1) 入試情報開示申請書を次のいずれかの方法で入手してください。

- ① 窓口で請求してください。
- ② 返信用封筒（本人の住所・氏名を明記し、110円分の切手を貼った定形封筒（長形3号（12cm×23.5cm））を同封し、「広島大学大学院人間社会科学研究科 入試情報開示申請書請求」と明記の上、人文社会科学系支援室（文学事務室）に請求してください。

(2) 入試情報開示申請書に必要事項を記入した後、以下の書類を同封の上、4月1日から5月31日までの間に直接又は郵送で人文社会科学系支援室（文学事務室）に申請してください。

- ① 必要事項をすべて記入した「広島大学大学院人間社会科学研究科 入試情報開示申請書」
- ② 広島大学受験票（UCAROから印刷したもの。開示の際、同封して返却します。）
- ③ 返信用封筒（長形3号（12cm×23.5cm）に受験者本人の郵便番号、住所、氏名を明記し、320円の切手を貼ったもの。）
なお、開示申請者が提出した申請書等に不備があるときは、修正を求めることがあります。

(3) 人間社会科学研究科では、入試情報開示申請書を受理した日から30日以内に、開示決定通知書を開示申請者本人へ送付します。（返信用封筒使用）

試験成績（個人情報）の開示に関する申請・問い合わせ先

人文社会科学系支援室（文学事務室）
〒739-8522 東広島市鏡山一丁目2番3号
電話：(082) 424-6615
Mail：bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

人文社会科学専攻 人文学プログラム 指導教員一覧

(注 1) 下記教員一覧は、令和6年10月1日現在(令和7年3月退職等予定者を除く)のものです。

(注 2) ※印が付している教員については、標準修業年限内の退職等予定者であるため、当該教員を指導教員として志願する者は、必ず事前(検定料納入前)に、広島大学人文社会科学系支援室(文学事務室)にお問い合わせください。

※1: 令和8年3月退職等予定者、 ※2: 令和9年3月退職等予定者を示す。

比較日本文化学	教授	高永 茂 ※1	日本語や日本文化を相対化し比較・対照研究を行うには、まず日本語と日本文化そのものを熟知する必要がある。教育においては、①言語学(とくに社会言語学と語用論)の観点から日常生活のなかで日本語が使われるときに観察される諸現象を分析すること、②言語文化学の観点から日本文化の特徴を追究すること、の二点に重点を置きながら授業を展開する。研究面では、コミュニケーション論と社会言語学を専門としている。コミュニケーションのメカニズムの解明、待遇表現の研究、言葉に係わる社会的な問題などに取り組んでいる。言語現象の理論的な説明に終わるのではなく、その成果を教育と実践に還元していくというのが基本姿勢である。
	教授	中村 平	台湾でのフィールド経験を軸に、日本植民主義と台湾先住民の歴史経験や暴力的な記憶について研究してきた。近年は autoethnography の方法論にも関心をよせている。参加者とは日台関係論のテーマに限ることなく、より広い主題を国際日本学や人類学、歴史学、社会思想史、文化理論などの領域との関係性において再考し、研究と教育の重なりにおいて比較日本文化学や人文学を開く実践を行いたい。同時期に知の権威化や制度化を考え直し、知の流通と教育・研究的な営み自体を議論の俎上にあげる。「学内」にとどまらないセミナーの場を触発され合う知の共同体と考え、発語・聞き書き表現することを洗練させる欲びと共に、それらのトレーニングを分かち合いたい。
	教授	本田 義央	比較日本文化学分野で、日本とアジアの文化の比較研究を行っている。研究の基礎は南アジアの古典文化にあるが、それがアジア諸地域に地域を超えて伝播しさまざまに受容されていく過程や受容ののちの変化に注目している。また、かならずしも南アジアに端を発することのみならず、諸地域の人の営みの諸相を文献資料に基礎をおきつつ、比較を通じて明らかにすることに関心をもっている。あたりまえのことでもどれだけの関心をもちこたわることができるか、得心がいくまで調べ考えることを大切にしている。
	教授	溝淵 園子	日本をひとつのモチーフとして対象化し、比較の手法によってそれを相対化する場合、さまざまなレベルで、「異文化」とどう向き合うかという問題が浮上する。教育面では、主に近現代日本の文芸メディアを比較文学の観点から検討しながら、広く文化の動態をとらえることを重視した指導を行う。研究面では、19世紀から20世紀にかけての日本とロシアの文学的關係に着目した比較文学を専門としている。受容論/影響論のほか、異文化表象や翻訳文学、「世界文学」の概念の変化、文学と美術のジャンル間交渉など、近現代の言語文化の「越境」をめぐる諸問題に着目した研究に取り組んでいる。
	准教授	太田 亨	鎌倉時代末期頃、中国より禅宗が伝来し、様々な文化がもたらされた。禅僧はこぞってそれらの文化を吸収し、膨大な量の漢籍を習得した。この受容の諸相を解明するために、禅僧が漢籍を受容して自らが作品を詠じるまでの段階を三つに区分し、漢籍そのものの書誌的事項の調査、漢籍を読解・解釈した内容についての調査、禅僧が詠出した作品内容についての調査を行っている。具体的には、杜甫や柳宗元の作品集そのものの価値や、禅僧が杜詩や柳文を読解した様相、義堂周信を始めとする禅僧の作品から見える人間像等を明らかにしようとして考究している。また、現代の漢文教育における教材に関して、その内容理解に関する問題や扱い方についても考究している。
	助教	劉 金鵬	戦後日本知識人の言論、特に「アジア」をめぐる諸言論について 研究を行っている。近代化論、ナショナリズム、アジア主義といった思想課題と格闘していた知識人の言論を考察し、比較的視野で近代以降における「アジア的」な思考回路を探求している。また、近代化以来、日中両国の間で共有されている思想課題に注目し、「科学」に対する批判と擁護を中心に、国の枠組みを超えて分析している。教育においては、戦後の総合雑誌を中心に当時の論壇を再現し、知識人の間で行われた議論を再検討している。さらに、同時代史の視座で、新しい日本文化のあり方を取り上げ、戦後における日本文化の変遷をたどっている。

哲学	教授	後藤 弘志 ※1	(1)主たる研究対象は、フッサール現象学における人格概念である。中でも人格が哲学的反省を通して、よりよい人生を送ろうとする際の決断を下支えする「よき習性」の役割に注目している。(2)この人格概念の出自を明らかにするため、フッサールにおける自然と精神、理論的と価値論的という対立図式を、同時代の新カント派、ディルタイ、および価値哲学者たちにおける図式と比較研究している。(3)さらに、カント以降、現象学派の価値哲学において復活を遂げるまでのよき習性としての徳概念の失われた歴史を追いかけている。(4)近年は、日本の近代化過程における人格概念導入の経緯に関心を寄せている。
	准教授	裕 智樹	近代ドイツの哲学者ヘーゲルの思想をテキストに依拠した厳密な文献学的研究に基づいて解明及び解釈するという研究を行っている。主な研究内容として、その論理学・現象学・法哲学研究を中心に、体系構築に至るヘーゲルの思想形成過程、カント及びドイツ観念論におけるヘーゲル哲学の位置づけや相互的影響関係、さらには現代分析哲学との関連でヘーゲル的着想の現代的意義等々を明らかにすることなどを試みている。そのほか、自由・承認・正義などを鍵概念として現代の社会・政治哲学にも取り組んでおり、個人の自由を実現できる社会の在るべきかたちを模索している。大学院の授業は近代における古典的哲学文献の講読が中心である。そこでは丁寧で緻密な読解を心かけ、哲学文献を読むための基本的能力を養いながら、参加者同士での議論を通じ、各人が自らの思索を深めていくことを目指している。
インド哲学	教授	根本 裕史	インドで生まれた仏教思想やサンスクリット文化は、ヒマラヤ山脈を超えてチベットに伝わり、独自の発展を遂げている。授業ではインドからチベットまでを対象とし、文化史や思想史について総合的に議論すると共に、サンスクリット語やチベット語の原典の読解法について基礎から指導している。専門はチベット仏教思想であり、主にゲルク派の創始者ツォンカパの縁起思想、菩薩思想、仏身論の解明に取り組んでいる。また、近年ではチベットの美文詩や詩論にも関心を広げ、同地で仏教思想と文学の融合が成立した過程について考察している。最先端のチベット学の研究成果を授業にフィードバックし、学問することの喜びを大学院生達と共有することを目指している。
	准教授	川村 悠人	授業では、ヴェーダ語や古典サンスクリット語で著された原典を厳密に読み解き、古代・中世インドの思想や文化を学生たちとともに発掘している。その中で、自らの感性に対して何かうったえかけられるものを学生たちに発見してもらえるように努める。最近の主な関心は、インドの言語論、詩論、神話に向いている。文献学的な研究の成果が、神話学、歴史学、宗教学、民俗学、文化人類学、言語学などの隣接分野の研究にいかに関与し得るかを常に意識し、同時に、他分野の研究成果を上手く摂取して活用することを心がけている。
倫理学	教授	衛藤 吉則 ※2	(1)ドイツの思想家ルドルフ・シュタイナーの教育思想について研究。2018年からは、NPO法人を創設し、シュタイナー教育の理論と実践に基づく発達障がい児のための療育活動を展開している。 (2)近代日本倫理思想(西晋一郎、山本空外等)や禅思想(仙居)を研究。これらの思想解明を通して、「平和理論の構築」をめざしている。 (3)実際の教育においては、伝統的な倫理思想の解明に加え、「教育と倫理をめぐる応用倫理的な課題」にも取り組んでいる。今日の教育問題の背後にある物の見方や原理、それに「善さ」の問題について、倫理学的観点から、学生たちと議論している。
	准教授	後藤 雄太	(1)存在の意味・価値の喪失、「ニヒリズム」の問題を、主にニーチェとハイデガーの思想を手掛かりに研究している。また、東洋思想における空や無の哲学も視野に入れつつ考察を進めている。さらに、単に思想研究にとどまるのではなく、その現代的意義にも注意を払っている。(2)生命倫理的課題としては、終末期医療の在り方や死の受容の問題といった、現代における「死に関する問題」を研究する一方、人工妊娠中絶や優生思想といった「誕生に関する問題」にも取り組んでいる。(3)情報倫理的課題としては、現代社会を席卷するインターネットやスマートフォンなどの情報技術との然るべき「距離」の取り方について研究している。(4)実際の教育においては、東西の伝統的な倫理思想の学習を重視する一方、現実世界に対する実践的な問題意識を持って思索するよう指導している。
	助教	岡本 慎平	19世紀イギリスの哲学者J.S.ミルを中心としたイギリス経験論の道徳哲学に関する思想史的研究、価値論や規範理論に関する現代哲学の理論研究、およびロボット工学や宇宙開発に関するテクノロジーの倫理問題に関する研究をおこなっている。授業では学生の関心に合わせて、(1)古典的文獻の訳読および解釈、(2)メタ倫理学・規範倫理学に関する有力論文の検討・考察や、論争状況の理解のためのサーヴェイ調査、(3)人工知能など現代の諸問題に関する最新の研究状況の把握のためのジャーナル論文の調査検討などをおこなっている。
中国思想文化学	教授	末永 高康	戦国から秦漢期にかけての諸思想を主たる研究対象としている。この時期に記されたテキストが、近年、竹簡や帛書の形で大量に出土してきており、伝世の資料によってのみ組み立てられてきた旧来の思想史の見直しが求められる状況となっている。そこで、これら新資料がもたらす知見を用いながら、伝世資料の読み直しや再評価を行い、当該期の思想史を新たに構成すべく研究を進めているところである。現在は特に、『礼記』、『大戴礼記』に収められた諸篇の資料的価値を再検討しながら、戦国儒家思想史の再構成を行っている。教育面では、諸注釈を用いて先秦諸子のテキストを読み解いていく技法を教授していくとともに、新出土資料を含む各種資料を用いながら思想史を組み上げていく方法について指導していく。

日本史学	教授	奈良 勝司	江戸時代が近代に移行する際、人々の行動や発想の前提にある認識の体系(世界観)がどう変わり、今の日本人のものの考え方をどう規定したのかについて、(未発の可能性も含め)19世紀という視座から多角的に検討している。特に、近代日本の自己中心的世界観や共同体主義、契約観念(の不在)の構造に関心がある。日本人論・日本文化論への、歴史学的なアプローチと言えるかもしれない。直接は見えない思想や認識を対象とするので、概念を扱う訓練や物事を深く考えるセンスが求められるが、他方では、それゆえ幅広い史料への目配りと発掘も大切になる(理論と実証が矛盾しない)。なので、未刊行の文書を含む史料を活用し、自由に、しかし厳密に読み解くことを重視している。
	助教	殷 暁星	近世～近代日本の民衆教化及び道徳倫理生活を分析することで、日本と東アジアの民衆教化思想が関係しあう歴史の全体図を描き出す研究を行っている。具体的には、近世東アジアに共有された道徳律がいかに日本の民衆に浸透したのか、近世日本の民衆の道徳倫理の形成は東アジアの思想展開にどう位置づけられるのか、東アジアとの連関の中で形成された近世の民衆教化思想が近代以降どのように変容したのか、などの課題に取り組んでいる。
東洋史学	准教授	上田 新也	主に近世ベトナム史を研究対象としている。近世ベトナム史研究では史料アクセスの改善により、地方統治の実態、村々における土地所有、家族形態、宗教実践などの詳細な分析が可能となった一方で、従来の研究の大幅な見直しが必要となっている。このためベトナムの北部～中部の村々での現地調査により村落文書を収集しつつ、近世ベトナムにおける地方統治、親族集団、土地所有などの分析を進めている。併せて、それらを通じてベトナム近世～近代における社会変容を東アジアや東南アジア社会との連関を意識しつつ明らかにしていきたいと考えている。
	准教授	船田 善之	モンゴル帝国時代のユーラシア中央・東部地域を研究対象としている。モンゴル帝国の拡大と統治に伴う多様な人間集団の移動と混住に対する関心から、前後の時代や隣接する諸地域も視野に入れながら、研究を進めている。とくに、多様な社会の形成と展開、またそのような社会に対する統治制度の解明に従事してきた。中国史でいう元朝期(元代)を含め、中国本土とモンゴル高原に重点を置いている。大学院では、多様な内容・媒体・言語の史資料や現地調査の成果を活用しながら、政治・法制・社会から外交・戦争や経済・文化交流に至るまで様々なトピックに取り組みたい。
西洋史学	教授	前野 弘志	古代地中海世界史およびギリシア語碑文学・パピルス学を研究している。碑文学は石や金属の板などに刻まれた文章を対象とし、パピルス学はパピルス草から作った紙にインクで書かれた文章を対象とする。具体的には、石板に刻まれてアクロポリスやアゴラに建てられた決議碑文や彫像などに刻まれた奉納碑文、鉛の板に書かれた呪詛、パピルスに書かれた結婚契約書や労働契約書、庶民が書いた手紙、魔術のマニュアルである魔術書などを読んでいる。これらを読むことにより、古代地中海に生きた人々の国家、政治、社会、宗教、生活、心性を垣間見ることができる。碑文を読み解く作業は、スリリングで魅力的な仕事である。またレバノンの世界遺産アルバス遺跡で発見された大型墳墓の発掘研究を行っている。
	准教授	藤原 翔太	近代フランス史を専門領域として、フランス革命・ナポレオン時代の地方統治構造の再編過程を分析し、近世国家(社団国家)から近代国家(国民国家)への移行の実相を研究している。具体的には、革命により成立した地方行政区画(県・郡・市町村)に設置された地方議会(県会・郡会・市町村会)に注目し、革命期に外部勢力の圧力により政治的に過熱した地方議会が革命終期にかけずに非政治化を達成したかを、憲法改正、地方行政改革、選挙制度改革、治安維持機構の再編等の観点から明らかにしようとしている。以上の研究を実現するには、フランス各地の文書館に所蔵される未刊行史料の調査と解析が不可欠である。大学院ゼミナールではそうした研究のノウハウを学びながら、新たな近代フランス像の可能性を開いていくことを目指したい。

日本文学語学	教授	下岡 友加	専門は日本近現代文学、日本語学。(1)志賀直哉のテキストを中心とした生成論、並びに人称やナラトロジーに基づいた私小説の方法に関する研究。(2)黄璽芝を中心としたポストコロニアル台湾の日本語小説・俳句に関する研究。複数の言語を跨ぐ作家によって編まれた新たな日本語文学の表象可能性を剔出する。(3)日本統治期台湾で刊行された官製プロパガンダ誌『台湾愛国婦人』を中心とした雑誌メディア研究。植民地の獲得とともに拡張した日本文学の市場や政治性、海を渡った編集者・記者の役割、〈読む女〉(書く女)に求められたジェンダー機能等を解明する。以上三領域に関連する研究課題であれば、いずれも指導可能であるが、画像も含めたテキストの精読を礎とする教育を重視している。
	教授	白井 純	日本語学、とくに日本語史を主な領域とし、キリシタン版を中心とする研究と教育を行っている。授業では文献学の基本的な技法の習得を重視するが、キリシタン版はキリスト教宣教師が西洋式の印刷技法を用いて日本で出版した辞書、文法書、宗教書などであり、(1)ラテン語を中心とする多言語環境のもとで構築された日本語の文法書と辞書、(2)ヨーロッパの原典を翻訳し改編した日本イエズス会独自の宗教書、(3)ヨーロッパ諸言語の文字より遙かに複雑な日本語の漢字と仮名を本格的に活字印刷した出版物、(4)日本語を学習し実践的に利用した外国人による最も早い日本語学習、(5)世界各地に分散するキリシタン版のフィールドワークによる探索と調査、などの幅広い視点による自発的な探究心が成長するような教育の実現を目指している。
	准教授	小川 陽子	専門は、古代中世国文学。主に、『源氏物語』をはじめとする中古中世の作り物語がどのように生み出され、現代に至るまでの各時代においてどのように読まれてきたかを研究している。特に、中世から近世における『源氏物語』注釈書の生成と展開、近世における中古中世王朝物語の書写や所有にかかわるネットワークを研究対象とする。授業では、中古中世の物語および私家集を取り上げ、写本や版本の状態から翻字・本文制定・付注を経て正確に内容を捉えた上で味読するまでの過程を学ぶこと、その過程において学生自ら問題点を発見できるようになることを目指す。
	助教	高尾 祐太	専門は日本の中世文学。中世文学の基盤を為す知識の体系を明らかにすると同時に、その知的基盤に照らして文学作品のテキストを丁寧に読解することで、作品の新たな読み・価値・本質を浮かび上がらせる研究をしている。研究対象は、中世の和歌注釈・歌論・連歌論を中心に、時には軍記・説話にも及び、それらの基盤として共有されている仏教・儒教・道教の三教(或いはそこに神道を加えて四教)一致的な知識体系との関わりを探究している。授業では、テキストの丁寧な読解を重視し、まずは国文学の基礎的な能力を堅固に構築することを目指す。
中国文学語学	教授	川島 優子	中国明清期の白話小説、特に『金瓶梅』を中心として教育研究活動を行っている。明清期の白話小説といえば、日本人にもなじみの深い『三国演義』や『水滸伝』『西遊記』等の作品が挙げられるが、これらの作品は、その成立の過程、使用されている言語、受容の在り方など、いずれも従来の伝統文学とは様相を異にしている。そんな中、『金瓶梅』に関しては、伝統文学とも同時代の白話小説とも異なる成立の状況、言語的特徴、受容の在り方が窺える。『金瓶梅』は中国の小説史を考える上でたいへん重要な作品だといえよう。また、中国の白話小説は日本人にもたいへん愛され、特に江戸時代においては様々な読まれ方がなされている。そこで日本における白話小説の受容についても研究と教育を進めている。
	教授	陳 獅	中国古典文学・文献学の研究教育活動を進めている。研究の中心は以下の通りである。(1)中国中世文学・文献学、特に昭明太子及び白楽天を中心とする中世文学思想の変遷をめぐる研究。また、日本における『文選』『白氏文集』の受容についても研究・教育を進めている。(2)旧鈔本(写本)を中心とする東アジア漢籍交流史の研究。日本に現存する漢籍資料、特に旧鈔本資料を研究対象とし、宋代以前に伝わった『史記』『文選』『白氏文集』などの漢籍のテキストの原型を研究している。(3)東アジア近世及び近代学術交流史の研究。特に島田翰、王国維、魯迅を中心とする近代学者らの漢籍蒐集活動と学術思想の研究・教育を進めている。

アメリカイギリス文学	教授	大地 真介	専門は、ウィリアム・フォークナーやハーマン・メルヴィル等のアメリカ文学である。特に現在、フォークナーの技法と人種・階級・ジェンダーの境界のゆらぎのテーマについて研究している。主に論文指導では、フォークナー、マーク・トウェイン、トニ・モリソン等のアメリカ南部の作家、メルヴィル、エドガー・アラン・ポー、ヘンリー・ジェームズ等の19世紀アメリカの作家に取り組む学生を指導してきたが、アメリカ文学であればいかなる作家についても指導する。授業においては、アメリカン・ルネサンスやモダニズムやアメリカ南部の文学の主要な作品を扱い、精読とディスカッションを組み合わせた授業形態を取っている。
	准教授	松永 京子	アメリカやカナダにおける原爆・核エネルギーをめぐる言説あるいは文化表象を研究対象とし、帝国主義・植民地主義の歴史的な脈や環境的視座などから研究している。特に、北米先住民作家やアーティストが、原爆、ウラン鉱山、核施設、原発、核廃棄物の問題をどのように文学・映像・芸術作品にとりいれているのかを、カルチュラル・スタディーズ、ポストコロニアル理論、環境正義などの学際的アプローチから分析してきた。授業では主に現代アメリカ文学作品をとりあげ、作家や作品に関する歴史的文化的コンテキストや、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティ、植民地主義、環境問題など幅広いテーマについて考えることに重点を置く。また、文学作品の複雑な位相を理解するための複眼的かつ批判的な視点を養い、自らの疑問点や関心を探究する場を目指す。
	助教	松本 舞	ヘンリー・ヴォーン、エイブラハム・カウリー、リチャード・クラショーなどの17世紀英国の詩人たちの作品を中心にイギリス詩の研究を行っている。近年では、錬金術思想をはじめとする神秘主義思想や科学思想から初期近代の英文学の分析を試みている。教育面では、イギリス詩に加え、現代詩、アメリカ詩を対象とする研究指導を行っている。また、英米文学作品に描かれた猫を中心とした比較文化や、ジョン・ミルトンなどによって書かれた叙事詩と現代のサブカルチャーの接点、詩作品と芸術との関連なども探っている。
英語学	教授	今林 修	後期近代英語期における英国小説の言語・文体研究を行っている。とりわけヴィクトリア朝を代表する小説家チャールズ・ディケンズが主たる研究対象であり、彼の作品に描出された「文学方言」の研究を行ってきた。最近では、ディケンズの言語・文体研究と並行して、英国19世紀の英語の特徴を音韻・形態・文法・統語・語彙の面から社会言語学やコーパス言語学の最新の手法を援用しながら調査している。プロジェクトとしては、故山本忠雄(前広島大学教授)の意志を継ぎ、広島大学と熊本大学の英語学講座出身のディケンズ学者と『ディケンズ・レキシコン』を編纂している。また、英文学作品の電子テキスト化をTEIに準拠して行い、その国際的な基準の確立と大規模な英文学アーカイブ構築を目指している。
	教授	大野 英志	14世紀後半の英国詩人ジェフリー・チョーサーの言語研究を行っている。これまで主として、非人称構文を研究対象とし、同一動詞が非人称・人称用法を持つ場合にその用法の差の意義およびその差から可能となる解釈を、語用論なども用いて調査してきた。その際、同時代の他の詩人や電子コーパスなども扱い、通時的・共時的な考察も行っている。大量電子コーパスが整備されつつあるなかで、コーパスを利用してわかることと、精読しなくてはわからないことを意識して、当時の語彙や文法項目の用法を明らかにしようと努めている。

ドイツ文学語学	教授	小林 英起子 ※1	18 世紀ドイツの啓蒙文学, 古典演劇をはじめ, 西洋比較演劇史, 近代ドイツ文学を研究している。近年はレッシングの喜劇と演劇論・演技論, C.F. ヴァイセの演劇と作劇法, ザクセン喜劇の手法, ノイバー夫人の演劇改革に関心を持って研究してきた。寓話文学, 児童演劇も扱い, 近現代の児童文学と関連づけて論じている。 授業では近現代文学や文化論のテキストを取り上げ, 解釈や技法の他, 批評, ドイツ語圏の歴史的, 文化史的背景も考察する。論文指導では, 具体的な課題設定と新しい研究成果を反映したアプローチを心がけている。中世から現代までの抒情詩も取り上げて学生と鑑賞し, 詩の技巧や文学的背景について検討している。
	准教授	今道 晴彦	コンピュータに蓄積された言語データから言語・文体情報を収集・計量し, 言語分析することを本務とするコーパス言語学(ドイツ語)を研究対象としている。(1)類義語・多義語の使い分け, (2)学術ドイツ語の選定, (3)複数のバリエーションを有する文法現象の研究をはじめ, 最近では(4)作文データを元にしたドイツ語学習者の過剰/過少使用の分析や, (5)要約文の自動判定の研究なども行っている。大学院の演習では, ドイツ語の原書講読を最優先しつつ, データ処理に関する実習も行っている。また, 分析で得られた知見を教材開発や各自の研究課題に応用することを目標にしながら授業を行っている。
フランス文学語学	教授	宮川 朗子	19 世紀フランス小説, とりわけゾラの作品を主な研究対象としてきたが, 近年は, 新聞と文学との関係に興味を持っている。とりわけ新聞連載小説に注目し, この形式の小説と時事的な報道や読者との関係性について考察を進めている。 教育においては, テキストの読解が文学研究の基礎であると考えているが, 授業では, ただ読んで訳すだけでなく, 読後に議論の時間を設け, 解釈の相違や多義性の有無を確認している。また, 論文指導では, 論文制作の手順と必要な作業を説明し, 手順に従って作成した提出課題の添削を通して, 論理的で説得力のある文章を作成する力を養うための指導を心掛けている。
	准教授	O.セカルダン	文化のハイブリッド性と移動の概念について研究している。そのため, 啓蒙主義時代のフランス文学から現代のフランス語文学(とりわけアンティール諸島の文学)までの広い対象について, これらの概念を, 比較文化的な見地から分析している。教育においては, 言語と文化の習得によって, 学生がフランス語圏において積極的な活動ができるようになるために, フランス語を習得させることに重点を置きつつも, 文学の授業においては, テキストの歴史的, 文化的, 社会的コンテクストに同時に注意を向ける複数テーマ的なアプローチを試みている。単にテキストの読み方を学ぶのではなく, テキストと思想のつながりを探しながら, 理解し, 解釈できる力をつけさせることを目的としている。
	准教授	O.ロリヤール	フランス古典文学とラテン語の研究から出発したが, 現在は, 外国語としてのフランス語とフランス文化の教育を専門としている。外国語の運用能力を習得させるための方法論の問題が中心的な関心事であり, 日本の学習者に固有の問題を克服させるのに適したフランス語教育法を模索している。具体的には, 非常に逆説的ではあるが, オーラル・コミュニケーション能力の習得を最適化させる上で, 翻訳という方法が果たしうる役割について研究している。 コミュニケーションの授業では, 母語と学習する言語とを直接的に突き合わせるこの方法を, 部分的に適用している。また, 文化の授業でも, コミュニカティブ・アプローチを基本としており, 学習をより自発的なものにするよう努めている。
言語学	教授	上野 貴史	言語学が科学の一学問として発達した歴史言語学から, 構造言語学や普遍文法にみられる言語事象を講義・演習形式で教育を行っている。 専門分野では, ①「言語形式の通時的変化」, ②「非対格構造における統語現象」, ③「コピュラの通言語学的研究」をテーマとして研究している。①においては, イタリア語における音韻・形態・統語変化について文学作品をコーパスとして調査している。②においては, イタリア語・英語の複合語・派生語の生成過程を研究する中で, 過去分詞派生語についての指摘を行い, これを契機として, 非対格構造の統語論を研究している。③においては, 通言語的なコピュラの統語機能・構造を研究している。また, 日本語対照言語学に関する教育と研究も行っている。
	准教授	尾園 絢一	インド・ヨーロッパ語比較言語学成立以来, 今日まで発展を続けている古インドアーリア語(いわゆるサンスクリット)歴史文法, 特に動詞形態論を専門とする。インド・ヨーロッパ語の中で中心的な位置を占める古インドアーリア語(特にヴェーダ語とよばれる古い言語層), 古イラン語(アヴェスタ語, 古ペルシア語), ギリシア語(特にホメロス叙事詩の言語)を主な資料として, 重複動詞語幹の形態・機能の解明を目指して研究を行っている。授業では古インドアーリア語をはじめとするインド・ヨーロッパ各言語間の比較・インド・ヨーロッパ祖語(共通基語)の再建などの手法を学びながら資料を分析し, インド・ヨーロッパ語歴史文法の原理の習得を目指す。

地理学	教授	後藤 秀昭	地形の発達史を紐解く中で地殻変動や活断層の変位について検討する変動地形学的研究を主に行っている。研究方法としては、空中写真や数値標高モデル(DEM)を用いたステレオ画像の判読による活断層の認定や地形の分類、現地での地形計測や地層の観察である。最近では、地理情報システム(GIS)やDEMを用いることで変動地形研究の新展開を試みている。陸上のみならず、海底の地形についても対象としており、変動地形研究者にしか読み取れない活断層の特性や地形発達について検討したいと考えている。その他にも、自然災害や地域の開発など、地形と関連した自然地理学的あるいは環境地理学的な課題についても検討したいと考えている。
	教授	友澤 和夫	(1)現代インドの空間構造の研究、(2)インド工業化の研究、(3)日本の新ビジネス・成長ビジネスに関する経済地理学的研究、の3つを現在遂行している。特に(1)と(2)については、広島大学現代インド研究センター長として、重点的に力を入れている。こうした研究の成果に基づいて、経済地理学や都市地理学を中心に人文地理学を幅広く教育している。指導学生は、産業であれば工業・商業・サービス業に、地域であれば都市や産業地域に興味を持つ者が多い。演習では学生の主体性と創造性の向上を重視した指導を行っている。博士課程リーディングプログラム(たおやかで平和な共生社会創生プログラム)の学生も受け入れている。
	准教授	後藤 拓也	これまでに行ってきた研究は、(1)アグリビジネスの地理学的研究、(2)企業の農業参入に関する地理学的研究、(3)インドのプロイラー養鶏産業に関する地理学的研究、の3つである。このうち(1)については、すでに研究成果を単著『アグリビジネスの地理学』(古今書院)として2013年に刊行した。また(2)と(3)については、現在もフィールドワークもとづいた研究を継続している。これらの研究成果を活用して、農業地理学・農村地理学を中心とした人文地理学の教育ならびに論文指導を行っている。大学院の演習においては、文献講読を通じて人文地理学の研究動向を学ぶことに加え、フィールドワークによる資料収集や聞き取り調査に重点を置いた指導を心掛けている。
考古学	教授	野島 永	日本列島における古代国家形成以前の考古学的研究を行なう。弥生時代から古墳時代の鉄器文化がどのように社会を変容させていったのかをテーマとした遺物論を展開する。また、古代国家成立以前に存在した世界各地の首長制社会の考古学的研究事例から、金属文化がさまざまな社会構造に関与していたことを明らかにする。金属文化の発展を視座とした首長制社会の比較考古学的研究を推進する。さらに、弥生時代墳丘墓や古墳時代前方後円墳など墳墓遺跡の発掘調査をおこない、その発展過程を総合的に考察する。最新の調査研究技術の習得とともに、考古遺物から古代社会の実像を見出す学際的研究ができるように指導する。
	准教授	有松 唯	古代オリエント(中近東)の考古学を専門としている。中近東は、人類史上の画期的現象が自生し、自律的に展開・発達した稀有な地域である。我々の社会がどのように成り立ったのかを考えるには当地の歴史の解明が不可欠であり、同時に、「我々はどこからきて、どこへゆくのか」という人文学の普遍的命題に向き合うにも最適なフィールドと言える。なかでも、アッシリアやアケメネス朝といった、古代帝国の成立過程の解明を目指している。とくに、アケメネス朝ペルシャは古代オリエントを統一した初めての勢力であり、また世界帝国とも称されるが、成立過程には多くの謎が残されている。また、その過程における、鉄の実用化プロセスにも着目している。こうした人類史上の課題に、理論の構築からフィールドでの調査研究に基づく実証的アプローチまで、多様な方法で取り組んでいる。
	准教授	上田 直弥	専門は日本考古学。特に日本における古代国家の形成過程に葬制の面からアプローチすることを中心的な研究テーマとしている。日本では3世紀から6世紀を中心として、巨大な墳墓を数多く築くという世界的に見ても特異な現象がみられ、その背景には単なる文化的特徴にとどまらない要因が潜むと考えられる。そうした古墳の出現と展開の背景を、その中心的施設である埋葬施設の構造分析を通して追究している。また国家形成期におけるモニュメント築造の意味を国際的に比較することで、世界史的視野から古代日本を評価することにも取り組んでいる。研究・指導においては遺跡現地の調査や実物資料を活用した実証的方法を重視する。
文化財学	教授	安嶋 紀昭 ※1	専門は日本美術史学。わが国の古代から中世に至る仏教絵画史と、それに関係する朝鮮半島から中央アジアまでの東洋絵画史を主たる教育研究領域とする。現存遺例に即して、X線写真や赤外線写真などの光画像計測法を応用した調査を実施し、印象論を排した客観的データに基づく表現や技法の解明を復元的に行い、文化財(モノ)の歴史上における存在意義を考究する。また、図像学を基本とした思想的背景の分析などを加え、文献史学の限界を超えた真の文化史を探求する。すなわち、美術史を学問として成立させようとするものである。さらに実査を通して、様々な状況下における文化財の適切な保存管理および修復の方法について、具体的に検証する。
	准教授	伊藤 奈保子	イスラーム化以前における古代インドネシア美術史、宗教史研究を専門とする。インドネシアをはじめ、アジアにおける仏教、特に密教の展開を、鋳造像、儀礼に用いる法具等の美術史・工芸史の観点から分析、碑文・史書・経典等を補足資料として究明を行っている。大学院演習では、学生個々人の課題に即して、アジア地域における美術工芸品の扱い方、撮影技法、調書作成等、調査方法の実習を行うとともに、同列による他地域との比較、史書や経典等との照合、社会的・歴史的背景との関連性をも含めた学際的な考察が行えるよう指導する。
	助教	中村 泰朗	専門とする分野は日本建築史であり、現在の主な研究テーマは、中近世過渡期における住宅および城郭建築(御殿や天守など)の復元的考察である。ここでは、文献史料や古絵図の調査という従来の建築史的手法に加え、発掘調査で明らかになった建築の痕跡を精査し、さらには御殿の杉戸など各地に伝存する建築部材を実測することで、今は失われた諸建築の姿を実証的に復元する。教育面に関しては、学生の興味と関心に応じて建築史に関わる様々なテーマを設定し、学生が論理的かつ多角的に考察できるよう指導する。また現地に赴いての見学や実測調査など、フィールドワークを導入した教育も積極的に行う。